

新老人の会

4

April 2014
Vol.15/No.4

3つのモットー

「愛し愛されること」「創めること」「耐えること」

1つの使命

子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること

「新老人の会」のロゴは
地球のすべての
「いのち」への畏敬と
「平和」を表しています



新老人の会



いのちの授業

上:3月3日中央区立泰明小学校で
—泰明小学校は1878年(明治11年)に創立した歴史ある小学校です。現在の建物は関東大震災後に建てられ、東京大空襲にも耐えた堅牢な造りです。

下:2月18日恒例となった東京の青山学院初等科で
—生徒たちに見送られて

全国44支部
11,953名
(3月末)の会員と共に

サポート会員
20~59
歳以上

ジュニア会員
60~74
歳以上

シニア会員
75歳以上

since
2000.9

子どもたちに「いのち」と「平和」の大切さを伝える」と 「私の想い」

「新老人の会」会長 日野原重明

「新老人の会」では子どもたちに「いのち」と「平和」の大切さを伝えることを使命としています。各支部においても「いのちの出前授業」や「戦争体験を語る」などさまざまな取り組みをしていきます。

私はこれまでに「いのちの授業」を通して「子どもたちに「平和」の大切さをお話してきました。平和な日本という国に育った10歳の子どもたちは、少し難しく実感のない話かもしれません。しかし社会状況の変化とともに、子どもたちに平和の大切さを伝えたいからではないかならないという思いが増しています。

今の政府は平和憲法であるの条を何とか改正しようとしています。しかし、日本国憲法の改正についてはその第96条第一項において、国会で総議員の三分の二以上の賛成でこれを発議しても、国民に提案して国民投票の過半数の賛成を得なければならないと定められています。ですから国会で憲法改正が可決されても、国民が国民投票で「NO」という意思を表明すれば憲法の条は守ることができるのです。万が一、戦争となつたらいちばんに徵兵されるのは若い人たちですから、彼らが投票権を持たないというのは片手落ちです。そこであわせて私は選挙権を18歳に引き下げることも提唱してきました。

いつか国民投票という時期が来るでしょう。その時に備えて、私たちは平和のこと「平和を守るためにはどうしたらよいのか」という知恵を子どもたちに授けておかなければなりませんのです。

「いのちの授業」ではないのちは自分の持っている時間だと話しかけます。「今君たちはその時間を自分のためだけに使っているけれど、大きくなったら自分の時間を人のために使えるような大人になってください。私の言っていることが分かった人は手をあげて」というと、子どもたちは目を輝かせて「元気いっぽいに両手をあげてくれます。

私はこの子どもたちが、きっと明るい未来を創ると願わずといられません。

自分の生き方は自分で考える

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

理事長 日野原 重明

最近、私の自宅の庭に3本のオリーブの木を植えました。先日の大雪で少しダメージを受けましたが、7年後にはきっとたくさんのオリーブの実がつくことでしょう。オリーブの実を絞ったオリーブ油は、動脈硬化によいといわれています。私は毎朝、テーブルスプーンに一杯のオリーブ油をオレンジジュースに混ぜて飲んでいます。これにビタミンBが多く含まれているブロッコリーなどの新鮮なサラダを食べることが私の健康法の1つです。

さて、誰にとってもどういう生き方をするかは、めいめいが追い求めていくべきことですが、ソクラテスは、「ただ生きるだけではなく、よりよく生きることを何よりも大切にしなければならない」と述べています。私はよりよく生きるためのヒントとして、「動物は走り方を変えることはできない。鳥は飛び方を変えることはできない。だが、人は生き方を変えることができる」と常々言っています。みなさんはよりよく生きるために、より充実した生き方を選びとるために、そして、生きがいのあるいのちを全うするために、自分の生き方はこのままでいいのだろうかとじっくり考えたことはありますか。変えたほうがいい、あるいは変えなければならないと気づいたら、勇気をもって生き方を変えるように行動してください。自分で変えようと思うのではなく、友だちや家族に「私は今日から生き方を変えます」と宣言してください。変えるということをはっきり口にすることが、変えるための力になります。

20世紀最高の哲学者の一人といわれるマルティ

ン・ブーバーには「年老いでいるということは、もし人がはじめるということの真の意味を忘れないなければ、素晴らしいことである」という有名な言葉があります。これは言い換えると、私たちは年をとっても、何か新しいことに挑戦する気概をもち、はじめるという勇気と実行力を備えてさえいれば、いくつになっても新しい人生にチャレンジすることができるというものです。

加えてベルグソンは「人間というものは、自分の運命は自分で作っていけるものだということを、なかなか悟らないものである」と言っていますが、みなさんは自分の人生が自分の思い通りにいかないと思うと、それは自分の運命が悪いからだというせいにしたり、あるいは誰か人のせいにしてはいないでしょうか。これでは受け身のままの人生が続いていくことになります。そうではなく、運命というものは自分の思い通りにデザインできるものだということをベルグソンの言葉から汲み取って、自分で自分の運命をデザインし、よりよく生きるための道を選び取ってほしいと思います。

私は最近、絵を描いたり習字を楽しんだりしています。小学生のときから習字は得意でしたが、当時はいかにお手本どおりに書くかという指導法で、楽しむところまではいきませんでした。ところが百歳を超えてからは、思うままに書けばいいと思うようになりました。思うままにさっと書きますと、案外格好よい字が書けるものなのです。

3年前から始めた俳句も、句集『百歳からの俳句創め』として発行されました。どうかみなさん、夢をもって積極的に自分の人生を生きてください。